

平成 27 年 7 月 3 日 (金)

京都市立洛風中学校 No. 3



洛風だより・ほかほか通信 ～保護者のみなさまへ～

6月26日より、新たなスタッフとして、清水ありさ先生が着任しました。
主に保健体育及びウイング2を担当します。よろしくお願いいたします。

気が付けば、もう7月に入りました。

6月には花背山の家での宿泊行事もあり、子どもたちは、とてもがんばって毎日を過ごしてきました。しかし、梅雨という気候も手伝い、心なしか休む子も多いように見受けられます。



子どもの「立ち止まり」は、その子が育つ大事な時、周りが良く見えてきたり、感じたりする心が高まっている時でもあるのでは・・・？

6月の子どもたちは、がんばって、がんばって洛風の階段を登ってきたように見えました。今、一息つく「踊り場」にさしかかっていると感じられる子どもたちもいます。登山でも休息の取り方が、成功の秘訣だと言われています。私たち大人も、日々の生活に追われ休息を取ることが苦手なのではと思うことがあります。険しい山の中腹で「ここでちょっと一休み」、ふと振り返ると眼下に、とても素敵な景色が広がっていることに気づかされたりします。

また、子どもによっては、洛風の生活に慣れてくると、自信を持てるような出来事と出会うだけではなく、自分の周りが良く見えるようになり、自分の「できなさ」にも気づくことがあります。そんな時には、解決をあせらず、一緒に苦勞を分かち合える存在が大事になります。

思春期の子どもは、言葉とは裏腹な「信号」を発信していることもありますね

先月の「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い～」では、思春期をテーマに話し合いました。思春期の中学生は、本当にわかりにくい難しい時期です。でも、本人たちは思春期という心と体の変化、大きな揺れと懸命に向き合わなければなりません。不登校は、思春期の大きな「不安」ともかかわりがあるのではないのでしょうか。

「うるさいなあ!」「うざい!」とか言っている、身体を寄せてくることもあります。逆に「学校おもしろい」「勉強頑張りたい」と言葉で発している、疲れが顔に出ていたり、無意識にため息をついていたりすることもあります。自分の気持ちを言葉でうまく表現できないことも思春期の特徴の一つです。

保護者の皆様も、一度ご自分の思春期はどうだったかに思いを巡らせ、子どもたちの言葉にならない「信号（微妙な表情の変化や空気の動き）」に眼をむけてみることも、子どもにとっては心強い支えになります。

